

# Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド  
東京都東京都千代田区神田神保町3-29-1

## 為替週間展望 = ドル円は堅調な推移が継続か

[ 2月24日からの1週間の展望 ]

週間高低 (カッコ内は日)		2月17日～2月21日				
	始値	高値	安値	終値	前週比	
ドル・円	109.77	112.23(20)	109.66(18)	111.94	+2.16	
ユーロ・ドル	1.0834	1.0851(17)	1.0778(20)	1.0793	-0.0038	
=====						
国内株・金利 / 米国株・金利						
	終値		前週末比		終値	前週末比
日経平均株価	23,386.74	-300.85	日本10年債利回り	-0.060	-0.033	
ダウ平均株価	29,219.98	-178.10	米10年債利回り	1.515	-0.070	
=====						

< 来週の主要経済統計等 >

- 24日 NZ第4四半期小売売上高  
独2月ifo景況感指数  
カナダ12月卸売売上高
- 25日 日本12月景気動向指数改定値  
独第4四半期国内総生産(GDP) 確報値  
米12月S&Pケースシーラー住宅価格指数、米12月住宅価格指数  
米2月消費者信頼感指数
- 26日 米MBA住宅ローン申請件数  
米1月新築住宅販売件数
- 27日 NZ1月貿易収支  
カナダ第4四半期経常収支  
米第4四半期国内総生産(GDP) 改定値  
米1月耐久財受注、米新規失業保険申請件数  
米1月中古住宅販売成約指数
- 28日 日本1月雇用統計、日本1月有効求人倍率  
日本1月小売業販売額、日本1月鉱工業生産指数  
スイス1月小売売上高  
スイス2月KOF先行指数  
独2月雇用統計  
ユーロ圏2月消費者物価指数速報値  
独2月消費者物価指数速報値  
カナダ第4四半期国内総生産(GDP)  
米1月個人所得・支出  
カナダ1月鉱工業製品価格  
米2月シカゴ購買部協会景気指数  
米2月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値
- 29日 中国2月製造業購買担当景気指数

【前回のレビュー】新型コロナウイルスの感染拡大は引き続きドル円の上値を抑える要因となるとした。ドル円は110円を超えて大きく上昇する動きは期待しにくいものの、極端な崩れもないとみられ、109円台を中心とするもみ合いとなりそうとした。

【ドル円は112円台まで大幅上昇】

新型コロナウイルスの感染拡大が続いている。中国での感染者数の増加ペースは鈍化傾向が見られたものの、再び集計方法を変更するなど、公表された数値への懐疑的な見

方も広がっている。日本でも感染者数は増加、韓国では感染者数が急増するなど、リスク警戒感が高まっている。

そうした中、このところの米経済指標は予想を上回るケースも多く、米国景気の堅調さが再確認されている。最近はリスク回避のドル買いの動きが強まっており、ドルインデックスは21日に99.90前後まで上昇しており、2017年4月以来の高水準となっている。

ドル買いの一方で円売りにも傾いているとみられる。17日発表の日本の昨年第4四半期国内総生産（GDP）は5四半期ぶりにマイナス成長となった。前期比年率換算で6.3%の大幅なマイナス成長となった。10月の消費税増税の影響が直撃した格好となっている。

さらに新型コロナウイルス感染の影響が日本にも拡大しており、企業活動、消費行動に影響が懸念されている。インバウンド消費などにも悪影響が出てくるとみられる。1-3月もマイナス成長に陥る可能性が高まり、リセッションへの懸念も台頭している。こうした日本の実体経済の弱さも円売りの動きにつながっているとみられる。また、20日にはクルーズ船のダイヤモンドプリンセスの乗客2名が死亡したとの報道や感染者の増加が連日報道されていることも円売りにつながっているようだ。

新型コロナウイルスの感染拡大への警戒感は根強く、中国をはじめとして世界経済への悪影響が警戒されている。20日に中国人民銀行（中央銀行）が1年物と5年物のローンプライムレート（LPR）を引き下げるなど、金融緩和策や企業支援策、景気刺激策などを打ち出してくるとの期待感もあり、上海総合指数は20日に節目の3000を回復した。中国株が堅調な動きを見せており、各国の株価の下支えにつながりそうだ。

ドル円は19日の海外市場で大きく上値を伸ばして、110円台前半から111円台半ばまで急伸した。これまでドル円は110円台前半に上値を抑えられていたが、ここを上抜くと一気に上昇した。20日の海外市場では112円台前半まで一段と上昇している。

従来であれば、新型コロナウイルスの感染拡大などのマイナス要因は、リスク回避の「円買い」に傾きやすかったものの、日本での感染拡大が「円売り」要因との見方も徐々に台頭しつつあるようだ。ドルの堅調さが継続するとみられ、新型コロナウイルスの感染拡大への警戒感は根強い中、ドル買い円売りの動きが進みやすくとみられ、ドル円は堅調な推移が見込まれる。ドル円の目先の予想レンジは、110.50～113.00円。

なお、日本時間の20日未明に発表された米連邦公開市場委員会（FOMC）議事録では、「現在の政策がしばらく適切」「第2四半期にTビル（財務省証券）購入縮小の条件が整うと予想」「新型コロナウイルスが見通し巡る不確定要素の1つ」「インフレ目標の2%中心のレンジ化採用の良し悪しを慎重に検討」「現在の金利水準はインフレ目標への回帰に有効」などとの見解が示された。ただ、市場の反応は限定的だった。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、25日に日本12月景気動向指数改定値、米12月S&Pケースシラー住宅価格指数、米12月住宅価格指数、米2月消費者信頼感指数、26日に米MBA住宅ローン申請件数、米1月新築住宅販売件数、27日に米第4四半期国内総生産（GDP）改定値、米1月耐久財受注、米新規失業保険申請件数、米1月中古住宅販売成約指数、28日に日本1月雇用統計、日本1月有効求人倍率、日本1月小売業販売額、日本1月鉱工業生産指数、米1月個人所得・支出、米2月シカゴ購買部協会景気指数、米2月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値などがある。

【ユーロドルは下落トレンドが継続】

ユーロドルはきれいな下落トレンドが続いている。1.1100ドル手前から下げに転じて、1.1000ドルや1.0900ドルといった節目を割り込んででも下げ止まらず、下落基調で推移している。1.0800ドルの節目まで割り込んでおり、地合いの

弱さを感じさせる動きとなっている。

リスク回避のドル買いの動きからユーロドルは売り圧力に押されており、ドルインデックスが上昇を続けており、ユーロドルは下げが続いている。テクニカル面では売られ過ぎ感も台頭しているものの、下げに歯止めをかけるだけの力はない。こうした中、ユーロドルは一段と下値を探る展開となりそうだ。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0700～1.0850ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、24日にNZ第4四半期小売売上高、独2月ifo景況感指数、カナダ12月卸売上高、25日に独第4四半期国内総生産（GDP）確報値、27日にNZ1月貿易収支、カナダ第4四半期経常収支、28日にスイス1月小売売上高、スイス2月KOF先行指数、独2月雇用統計、ユーロ圏2月消費者物価指数速報値、独2月消費者物価指数速報値、カナダ第4四半期国内総生産（GDP）、カナダ1月鉱工業製品価格、29日に中国2月製造業購買担当景気指数などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買については御自身の判断でお願いします。

---

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については伴線を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。